

平成30年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和南高等学校）（学校番号 s 5 1）

目指す学校像	南高生の誇り10箇条を座右の銘とし、人格の完成を目指し、豊かな情操を培い、探求心旺盛な自主自立の精神に満ちた心身共に健康な民主的社會人の育成を期する。
重点目標	1 主体的に学習できる生徒の育成と進路実績の一層の向上を図る。 2 活力と特色ある教育活動を推進する。 3 地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価（2月1日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	個のニーズに応じた選択科目を充実させた週34単位、年8回の土曜授業を導入し、2年目を迎える。来年度の完成年度を見据え、以下の検討・実践を行う。 ①高大接続及び新学習指導要領に対応した授業改善 ・「主体的・対話的で深い学びの推進」 ・「新大学入試の研究」 ②ICT教育の環境の整備、授業等でのICTの活用 ③生徒の進路実現のための的確な情報提供と進路実現の向上	授業改善の推進による確かな学力の育成 進路希望実現に向けた計画的な取組	・研究授業、授業研修会の実施 ・ICT活用環境の整備 ・公開授業の推進 ・AL実践の推進 ・生徒アンケートの実施	・土曜授業、初任研等、多様な機会での授業を公開する。 ・公開授業を通して、授業改善研修会を年3回以上実施する。 ・ICT学習室を整備すると共に、ICT教育を研究・実践を行う。 ・生徒アンケート改善と授業満足度の7割超。	・土曜授業については大会日程等を考慮し実施時期を見直した。 ・公開授業の翌週に教科別の研修会を実施（年2回）するとともに、外部講師を招いての研修会を実施（年1回）し、主体的な学びの導入について検討した。 ・ICT学習室の整備とタブレット126台の導入を行った。 ・生徒アンケートの項目を精査、改訂しアンケートを実施、授業満足度については経年変化で数値が上がったが、目標には達しなかった。 ・ICT環境の整備と新しい学習支援ソフト（ロイノート）の導入を行った。1・2年次で英検・GTECを全員受験。英検準2級以上合格率約93%（2年次生）。 ・3年次の夏季補習の講座数は161講座（昨年比43講座増）実施した。 ・模試はほぼ100%の生徒が受験し、実施毎に教員向けの分析会を実施、生徒に適切な事後指導を行った。 ・進路ガイダンスについては予定通り実施し最新の情報を提供した。10分前登校による朝学習はすべての年次で実施。1年次では年度当初にHR合宿を実施するとともに学習支援クラウドサービス（classi）を導入し、生徒の進路意識の向上を図った。	B	・高大接続及び新学習指導要領に対応した「主体的・対話的で深い学びの推進」に向けた授業改善について具体的な方策を探り実践する中で、生徒の授業満足度のさらなる向上が課題である。
2	主体的な学習態度育成のためには、授業以外の体験的な活動も重要である。今年度も以下の実践を通じて体験的に理解する活動を増やし、様々な観点から生徒の人格形成を進める。 ①「3つの感動体験」の充実 ②主催者教育や講演会等の特別活動の工夫 ③人工芝グラウンドを活用した体育活動の充実と、安全かつ効率的な使用に向けた研究	学校行事の充実と安全確保 多角的に人間形成を進める特色ある教育活動	・生徒の主体性を引き出す学校行事の実施 ・安全確保の強化 ・生徒の参画意識、危機管理意識の啓発 ・年間行事計画の効率化及び精選	・生徒主体の体育祭、文化祭の実施 ・PTAと連携した行事の安全強化 ・登下校時の安全指導の徹底 ・年間行事計画を見直し、授業確保や進路指導を充実できたか。	・人工芝グラウンドを使用した伝統の体育祭を復活させた。ミスインターナショナル交流などの行事も含め、生徒会・各種委員会が主体的に取り組んだ。 ・昨年に引き続き、文化祭での警備をPTAで実施し、安全な行事運営を図った。 ・年5回の登校指導週間を通して安全指導を徹底した。 ・3年次3学期の授業形態を見直し、入試に向けた演習の時間を確保した。 ・社会探検工房では参加生徒が1名増え、産業能率大学との連携によりプレゼン能力の向上と、進路意識の啓発につながった。 ・ジュニアインタープリター、辻小学習ボランティアとともに参加生徒が2名増え、地域連携事業に積極的に関わった。 ・新たにイングリッシュキャンプへの生徒派遣を実施、地域のリーダーとして大いに活躍した。	A	・生徒会、各種委員会を中心に生徒主体の学校行事の運営を継続していく。 ・より効率的な年間行事計画の見直しを継続していく。
3	関係諸機関のニーズに耳を傾け、より社会に開かれた、地域から信頼される学校づくりを進めるために以下の実践を行う。 ①保護者、地域に開かれた学校づくり ・グラウンドの地域開放事業の推進 ・授業公開の推進 ②企画委員会を中心とした風通しの良い学校運営 ・校務の可視化と効率化による職員の共通理解の深化 ・業務の継続性の確保による組織力の向上と風通しの良い職場環境の構築	保護者、地域に開かれた学校づくり 企画委員会を中心とした風通しの良い学校運営	・近隣小中学校、辻地区、さいたま市及び南区との連携推進 ・広報活動の活性化 ・地域、保護者ニーズの集約と迅速な対応	・地域連携事業等の活性化と連携意識の向上、共有。 ・授業公開＋学校説明会の拡充。 ・HPを活用した細やかな発信。 ・メール配信の活用。家庭との連携強化。	・書道・吹奏楽・卓球・サッカーなど7つの部活動が地域交流事業を実施した。他校に先立ちCS実現に取り組み、文部科学大臣賞を受賞した。 ・授業公開、部活動見学、個別相談、学食利用を盛り込んだ学校説明会を実施した。 ・HPの随時更新、メール配信を活用し、教育活動の今を発信するとともに、機に応じた情報発信を行った。 ・教職員の年齢構成に応じた分掌配置に向け内規を改訂した。進級に係る内規については現在検討中である。 ・企画委員会を中心とした共通理解の推進については定着してきた。 ・組織の改編については現在検討中である	A	・本校の特徴である地域交流事業をCS先進校の立場から、さらに充実させ、生徒の多様な可能性を高めて、地域交流事業の参加生徒数の増加を図る。
			・総括に基づく懸案事項の共有 ・新たな取組等、改善点の組織的な検討 ・分掌横断、将来構想事項の積極的な検討	・分掌配置、進級等に係る内規検討 ・柔軟な委員会運営による共通理解の推進。 ・組織のスリム化、業務の効率化・可視化の具体的方策		B	・行事精選、校務のスリム化を検討し、教育活動の効率化を進めるとともに、業務の可視化・効率化に向けて具体的な方策を検討したい。

学校関係者評価	実施日 平成31年2月5日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学では、以前の学生より一般的な形式でまとめる能力が向上したと感じる半面、独創性については非常に乏しいと感じる。「主体的・対話的で深い学び」を実践し、独創性を高めることにつなげてほしい。 ・大学生や社会人が、高校時代にどのようにして学習やキャリアを考えたかを伝える機会があると、高校生にも参考になる新たな高大接続の形になるのではないかと。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習をペナルティでなく、生徒に意義を理解させながら進める取組は素晴らしい。生徒への教育活動の意義理解が深まれば、生徒は自己の成功イメージをもって、主体的に学習に取り組む。大学に入ることが目的でなく、何のために学ぶかという目的意識の醸成が自己のキャリアについて深い学びの基盤となる。 ・英語外部試験と高校教育が求める学力には違いもある中で、新大学入試へ迅速に対応し、英検の合格率や模試の受験、分析を進め成果をあげている点は評価できる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や教師が「やりなさい」と言うだけでは、今の生徒は動かない。各行事が人間形成にどのような意味があるかを理解し、各自の成長ストーリーを認識できるとよい。 ・新たな視点の獲得には、学習と経験が必要である。学習をもとに主体的に経験することを促してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習だけの成長には限界がある。体験型教育活動の充実が、生徒のキャリア意識の醸成につながっていると評価できる。 ・将来の職業、なりたい自分探しについては、本協議会等を通して、高大連携の取組を模索していくことも一つの方策である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わりを多く持ち、視野を広げていながら、「コミュニティリーダー育成」や「地域課題解決型学習」の要素を取り入れる方策を探り、生徒一人一人が自己の役割を考え、コミュニティとの関わりを考察できるプログラムに発展させたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・現行の地域連携を中心にコミュニティ・スクール事業としての意義を具体化していくができれば、さらに生徒の主体的参加を促す事業となり、教育の効率化にもつながるのではないかと。 	